

天樹院墓所

萩城下町の堀内地区の緑豊かな場所にある天樹院墓所（天樹院廟）は、大名・軍師・照本毛利（1553～1625）とその妻・清光院（南の緒方）の終の棲家である。ここは、大名で軍師の毛利輝元（1553～1625）とその妻・清光院（南の大方）の永眠の地である。天樹院とは、毛利輝元の諡号である。墓地は輝元の旧居の跡地にある。輝元の家臣である長井元房もここに埋葬されている。彼は 1625 年に主君が亡くなった際に殉死している。

輝元は、武家の毛利元就（1497～1571）の孫であり跡取りでもあった。1598 年、輝元は豊臣秀頼（1593-1615）が成人するまでの 5 人の摂政のうちの 1 人に選ばれた。同じく 5 人の摂政のうちの一人であった徳川家康が権力を握り始めると、輝元は秀頼に味方した。輝元は大群を支配していたが、関ヶ原の戦い（1600 年）では、大坂城に籠城し秀頼側の勝利を犠牲にすることになった。戦に勝った徳川に敵対していた罰として、輝元の領地のほとんどが奪われ、毛利氏は広島から萩に移ることを余儀なくされた。引退後は頭を剃って僧侶となった。

大照院や東光寺のような他の毛利の永眠の地に比べて、墓所は質素なものである。輝元とその配偶者の墓は、玉垣で囲まれた五層の高輪塔墓である。石造の鳥居と石灯籠が 64 メートルの参道に並んでいる。